

熊本地震2年 被災の崇城大学に新施設

改修で「学内留学」体感

熊本地震（平成28年4月）で被災した崇城大学（熊本市西区、中山峰男学長）の新しい英語学習施設「SILC（シルク）」が完成した。4月にリニューアルオープンし、新入生らを出迎える。「学内留学」を体感できるチャンスに、これまで以上に恵まれた施設として戻ってきた。（谷田智恒）

シルクは、世界に通用する人材を熊本から輩出する目的で、22年4月に開設した。

だが、一連の地震で被災し、建物の安全性が確保できなくなり、学生たちの学習環境は一変した。この2年間は学内の別の教室で分散しながら勉強し、英語教育を受けている。外国人講師17人が生きた英語を教えるため、教壇に立つ。

シルクは新しく建て替えた4階建ての校舎に入る。1階にはガラス張りでおしゃれなカフェを併設した。これまでよりも天井が高く、開放的で、英会話も自然と弾む空間に仕上がった。

校舎内には、学生が自分

にあった学習を自主的に選択できるセンター「SALC（サルク）」もできた。

発音を練習できるブースなど、学生一人一人のレベルに応じた英語を学べる空間が広がる。外国人講師とマンツーマンで、気軽に会話できるラウンジもある。

今月20日にはシルクの竣工式と内覧会が開かれた。大学の関係者ら約50人が神事に参加し、新しい学舎の飛躍を祈った。

中山学長は「4月から新しい校舎で授業が再開できるのはうれしい。学生には大いに活用し、グローバルに活躍できる人材になってほしい」とあいさつした。

シルクのセンター長、ジョン・ロウベリイ教授は「私たちが懸命に英語教育や研究に励むのが、被災からの復旧・復興でお世話になった方々への一番の恩返し。学生たちのためにも全力で頑張る」と約束した。学生らも4月を待ちわびる。工学部1年、野崎奏哉さんは「大学の特長でもあり、新しい施設で学べると思うと、とてもワクワクしています」と語った。



完成した英語学習施設「SILC」の内部。
4月から開放される＝熊本市西区の崇城大